▲　▲　▲

私が初めて寫生に出たのは子供の時學校で遠足會があつたのでスケッチブックを携へて行つた時であつた。偖て目的地へ到著して一同休憩して居る間に一二枚田舍家だの土橋だの畫いて見たが思ふやうに行かない。第一何處から筆を下だして宜いか勝手が一向分らぬ。それで畫學の先生が側に居られたから聞いて見た。先生は私のブックを取つて。斯う畫いて見給へと云つて紙の上へ横に一本筋を引いて。之が地平線と云ふもので最初に之を決めて置かないと畫が納らぬと云ひ乍ら此地平線の上へ遠方の山をかき又た木をかき又た之を見當として中景の田舍家を畫いて先づこんな理屈だと云つて私に渡された。私は之で初めて寫生の仕方が分つたと同時に此時受けた教訓は今日まで忘れない。寫生の奥義は全く之であると深く悟つたのである。

其後此問題に就ては常に自分だけで研究し又た人にも教を聞いた。私は元來畫は何處までも自分で苦しんで研究して見てから後で先輩の教を聞くのが一番有益であると考へて居た。それ故何時でも此方法で習つて居た。地平線と云ふことは學校でも遠近畫法で度々習ふことでもあり。又た文章などでも夕日が地平線に沈んだとか殘烟一抹水平線上に懸るとか云つて我々の考へには近いものであるが實際畫の上に之を現はすことゝなると大分六かしくなる。

寫生は要するに地平線を工合よく操縱することであると思ふ。初學の人の寫生には地平線が何本も有るやうで家屋が凸凹し地面に高低があるやうに見えるなどは全く地平線の所在が確定せぬからである。

日本畫には地平線が無い。尤も近頃の日本畫は皆低く地平線を取つてあるが昔の雪舟とか探幽とかの風景畫には地平線と云ふほど判定たるものが無い。土佐畫の人物畫などは室の天井を脱づした處を表はして瞰下ろしたやうな圖取りであるが之れにも亦た地平線は置かない。風景には地平線は必ず有るものだから畫にも地平線があるのが當然であらう。只だ日本畫は模様七分實景三分とも云はれる畫であるから地平線が餘り際立つのは畫が理屈に陷ちて餘韻が乏しく感ずる。此頃の地平線のある日本畫と昔の地平線の無い日本畫とを比較して見ると能く分かるのである。併し西洋畫には必ず地平線がある。花一つ畫いても鳥一羽寫しても皆地平線の所在が確定して居る。何故と云へば地平線は其花なり鳥なりを見る人の位置と照應するものである以上は。物が有れば之を看る人の所在も無ければなちぬと同時に地平線が共に決まるからで有る。

西洋畫で地平線を除くと模様になる。乃ち模様は物を何處にでも都合のよい處へ工合好く配列したもので畫とは全く趣が違うからである。(欽)

日本水彩畫會横濱支部は、本月より横濱市伊勢山大神宮前坂本幼稚園を會場とし、毎月一回第一日曜日大下藤次郎氏出張授業さるべし。